ひょうご国際ビジネスサポートデスク通信
2026.11 月号
vol.46

11月18日、深圳がアジア太平洋の中心になる

～APEC中国イヤー、広東が売り込む「開放・革新・協力」～

広州デスク　植　兆俊

11 月 18 日から 19 日まで、広東省深圳で APEC 第 33 回経済首脳会議が開かれる。21 の国と地域が参加し、GDP で世界の約 6 割、貿易で約半分を占める枠組みだ。本会議は中国が議長を務める「APEC 中国イヤー」の集大成であり、中国での開催は 2014 年の北京会議以来 12 年ぶりとなる。今年 2 月の APEC 高官会議も広州で開かれ、その後、貿易やデジタル経済、中小企業、食料安全など、約 10 の専門大臣会合を含め約 300 の会議が中国各地で開かれた。その結果、APEC 会議のテーマは「アジア太平洋共同体の構築、共同繁栄の促進」、優先分野は「開放・革新・協力」となっている。

なぜ舞台が広東なのか。数字が答えになる。広東省統計局によれば、2026 年上半期の GDP は 7 兆 2,281 億元、前年同期比 4.5% 増で全国首位。外国貿易は半年で 5 兆 4,900 億元に達し、全国の貿易増加分の 25.6% を広東が稼いだ。けん引役は電子情報で、コンピュータ・通信・その他の電子設備製造の付加価値は 11.6% 増え、工業全体の成長の 5 割超を一業種で押し上げた。金融業も 8.5% 伸びている。

日本との距離も近い。中国税関の統計を整理した対外経済貿易大学の月次報告によれば、日本からの輸入額が最も多いのは上海でも江蘇でもなく広東で、1～7 月に 351 億 9,000 万ドル、前年同期比 65.4% 増だった。日本の部品と設備が、この省の生産ラインに大量に入っている。

「世界の工場」は今、「AI の工場」を名乗ろうとしている。省は AI の全域・全時・全業種展開を 7 方向 63 分野で打ち出し、身体を持つ AI＝具身智能（エンボディド AI）を重点に据える。舞台の深圳には、テンセントや BYD、ヒューマノイドロボットの優必選（UBTECH）が本社を置く。

ヒューマノイドロボットの優必選（UBTECH）



（出所：優必選（UBTECH）の HP より）

韶関（広東省）には国家算力（データセンター）拠点が置かれ、公共データは 270 億条に達する。輸出の中身も変わり、上半期は集積回路が 61.4% 増、リチウム電池が 42.7% 増、電気自動車が 35.3% 増、産業用ロボットも 16.8% 伸びた。

投資に目を移すと固定資産投資は 11.4% 減、建築業は 5.0% 減、社会消費財小売総額は 1.3% 増にとどまり冷えているが、一方で伸びたのは設備購入投資の 22.4% 増とハイテク産業投資の 9.8% 増となった。いわゆる箱物は停滞し、資金は設備と技術へと移っている。

ここが兵庫の企業にとっての読みどころだ。首脳会議の演説より、その後に何が残るかである。APEC は中小企業を正式な議題に含めている。会議を機に、視察や商談の照会は確実に増える。狙い目は会議直後の 11 月下旬から 12 月となり、中国の設備更新、省エネ、ロボット周辺、検査・計測投資が実際に増えてくる時期と重なる。

しかも、会議が終わって 1 週間後、同じ深圳で別の催しが始まる。11 月 26 日から 28 日まで、第 28 回中国国際高新技術成果交易会（高交会）が深圳国際会展中心で開かれる。展示面積 40 万平方メートル、100 余の国・地域から 5,000 社超が集まる、中国で最も歴史の長い技術見本市だ。AI・ロボット、半導体、低空経済、省エネの各展区が並ぶ。首脳会議の 2 日間より、この 3 日間のほうが実りは大きい。

APEC 会議は 2 日で終わる。問われるのはその後となる。広東が「開放」をどこまで具体化するのか、深圳がどれだけ外国人を受け入れるのか。もし視察の機会があるなら、APEC 会議より展示会場と工場をのぞいてみてほしい。11 月の広東は、APEC 会議そのものより、会議の後に動き出すビジネスのほうが、きっと面白い。

高交会での実務的な商談



実際の工場の視察



（イメージ画像：AI 生成）

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。
本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行　公益財団法人ひょうご産業活性化センター　ひょうご海外ビジネスセンター】